

環境フェア2011パネル展 緑のカーテンの効用を披露

地球環境、ごみ減量、消費生活、そしてあらたに《緑のカーテン》として注目された“ゴーヤ効果”の報告を加えた『環境フェア2011パネル展』を平成23年12月3日から10日まで増尾近隣センターロビーで開催しました。

関心が高かったのは、生育したゴーヤによる緑のカーテンのパネル4点。熱心にメモを取る方もいました。このパネルは、ららぽーと柏の葉において柏市が開催した『柏環境フェスタ』にも展示し、高い関心を持たれたようです。

この結果を受け、次年度もゴーヤ苗の配布をすることになりました。下記の要領で配布をしますので緑のカーテンの効果をぜひ体験してください。

また、期間中実施したエコ活動のアンケートは、377名の皆さんが回答を寄せてくださいました。上位には①買物にマイバック持参53%②電灯をこまめに消す33%③風呂の残り湯の活用14%などがあり、他にも湯たんぽやカイロの使用、冷蔵庫開閉の回数を減らすなどさまざまなエコ活動が示されました。

そして、皆さんのご協力で回収しているペットボトルのキャップは、平成21年収集開始から3年間で、累計118,000個（ワクチン147名分）となり、エコキャップ推進協会に寄贈したことをご報告いたします。

環境部 中山 紀之

ゴーヤの苗を配布します

申し込み 平成24年4月8日(日)～4月22日(日)

1世帯4株、先着50世帯、無料

配布日 平成24年5月7日(月)

配布場所 増尾近隣センター

問い合わせ 中山 TEL 7173-1463



消費電力に注目

介護保険の相談は 地域包括支援センターへ

「介護保険申請のときに必要となるピンクの介護保険被保険者証は65歳になると交付されます」

平成23年12月9日、増尾近隣センターで『介護保険サービス』をテーマに開催した地区社協部主催消費者講座は、こんな話から始まりました。講師は柏市高齢者支援課のお二人。在宅福祉サービス担当の鎌重良太氏からは、自宅で受けられるおむつなどの介護用品給付、住宅改造補助などの条件に該当する人が受けられるサービスについて、そして介護保険サービス担当の関口睦美氏には介護される人、介護する人が利用できるサービスを、ご自身のおばあちゃんの介護体験に基づき話してくださいました。

介護を必要とする方が、出来るだけ自分の力で日常生活を送れるよう、社会全体で支えるために作られた社会保険制度ですが、受けられるサービスは状態・環境によって変わるため、なかなか理解することは難しいようです。介護保険について分からないことがあったら、まず地域包括支援センターに相談してください。介護保険サービスについても最善の利用法を教えてください。

交付された介護保険被保険者証は紛失する人も多いため、大事に保管してください。

消費生活コーディネーター 嶋田 由紀江



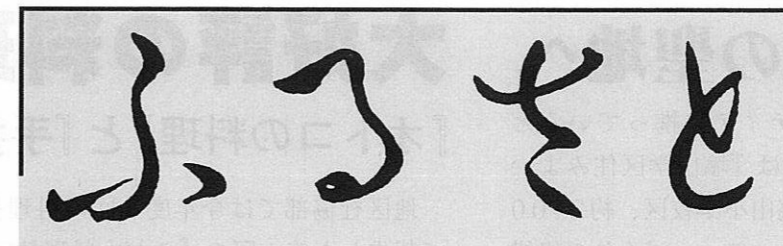
バリアフリーの改修には補助金あり

総会開催のお知らせ

平成24年度増尾地域ふるさと協議会総会を下記の通り開催します。これまで5月に開催していた総会を、今回より4月に実施することになりました。

日時 平成24年4月22日(日)午後1時30分より
場所 増尾近隣センター体育室

なお、出席者には追って詳細を郵送にてお知らせします。その折、総会資料を同封しますので当日はお忘れなくご持参ください。



吉田 稔 筆

みんな元気 住んで良かった この地域

平成24年4月 No. 101

● 編集・発行
柏市増尾地域ふるさと協議会
(土地区社会福祉協議会)

〒277-0033
柏市増尾三丁目1番1号
増尾近隣センター内

☎ 04-7174-7211

参加者数50%アップ 年末夜間防犯パトロール

平成23年12月25日、柏市防犯交通安全組合増尾支部と増尾地域ふるさと協議会の共催による恒例の年末夜間パトロールを実施しました。

午後6時に増尾駅前交番に町・自治会の方々が集結。交番警察官の防犯状況説明では、各町・自治会の自主的防犯パトロールの成果で、この地域での犯罪は減少傾向

にあるとのこと。

青色回転灯装備車両(通称青パト)2台の先導によるパトロールを開始。合図灯を手に町・自治会ごとにそれぞれの地域を見回りました。参加者数123名は前年比50%増で、特に20～59歳の43名は大幅増です。また女性の多さも今回の特長でした。

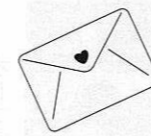
防犯防災部 栗田 益夫



パトロール仲間が大集合



報告 ○町会 △△名 / 了解。



私の町会・自治会だより

皆さんの町会・自治会を紹介していくコーナーです。
サンパセオ新柏自治会

新柏駅から東武ストア方面を見ると、側道に沿ってパームツリーが植樹されているマンションが見えます。その住民で構成しているのが、わたしたちのサンパセオ新柏自治会です。建物はA～E号館の5棟で、中央に管理事務所棟、中庭、公園があり、休日には、中庭でボールや滑り台で遊ぶ子どもたちの歓声が上がります。

世帯総数422戸のうち、自治会加入は310世帯、加入率は73%になります。

平成元年に入居が始まり、すでに20年を超えまし

た。当時30代だった多くの世帯主も、すでに60代となり、成人した子どもたちが独立していくので、一時期は高齢化が見られましたが、最近では、子育て世代の若い居住者も増加傾向にあり、高齢者と若年層がバランスよく居住していると感じています。

防犯・防災の啓発活動、納涼大会、クリーンデー、餅つき大会などを企画して、住民同士の交流を図り、安心で安全に住める住環境を目指す自治会活動を進めています。

会長 生田目 芳昭



地域福祉活動の聖地へ

“ハナヤマ学区”。地域ボランティアに携っているとしばしば耳にする名前で、正確には『塙山学区住みよいまちをつくる会』。茨城県日立市塙山小学校区、約2400世帯、7400人を対象とするコミュニティーづくりの組織です。多彩で先駆的といわれる活動は、総理大臣賞、自治大臣賞などを受賞。全国から視察が年間平均30件、受け入れ自体が事業の一つになっているらしい……

平成24年2月23日、地区社協部主催地域福祉研修が開催され29名が参加しました。一行は雨中、日立市へ。塙山交流センターでは事務局の皆さんが傘をさしかけて迎えてくれました。玄関脇のホールではお年寄りのひな祭りの宴たけなわ。奥の多目的ホールに案内され、創立以来30年以上、会を牽引する西村ミチ江会長と伊藤智毅副会長から説明を受けました。

この会は昭和55(1980)年、塙山小学校新設に伴って設立され校舎内で活動を開始。しかし独自の拠点の必要性を感じ、署名運動を行って自主センター建設を実現し、同時に自主運営を開始。自主運営とは、会費や市の委託金などをもとに、運営委員会が雇用した事務員や協力員が事務・管理を行うシステムで“塙山方式”の特色の一つです。またセンターと事務局を持つ強みを活かして行われる“地域問題解決365日型”の活動こそ最大の特長といえます。コミュニティープラン『さんさん計画』の策定委員会を設置し、定期的に全世帯や小・中学生対象のアンケート調査を実施、現状と課題を分析して事業を決定しているとのこと。一部を紹介すると、高齢者支援台帳である『はなやま安心カード』の作成、タクシー会社と提携する『ジャンボタクシー』。毎月の『ふくしかわら版』の配布には子どもも参加し交流の場にも。目下最大のテーマは「災害につよいまちづくり」で西村会長の「初動は地域でやるしかない」、「時代の要請に遅れない」のことが印象的でした。



西村ミチ江会長

当増尾地域でもお年寄りや子育て世代を応援するサロンが定着しつつあり、3か年の福祉教育パッケージ指定を経て学校と地域が協力して福祉の街づくりをしようという土壌が整いました。西村会長の「街づくりにルールはない」とのメッセージ通り、いろいろな団体の利点を取り入れながらオリジナルの“増尾方式”を進めていかなければと実感した視察でした。

地区社協部 吉尾 薫子

大好評の料理教室

『オトコの料理』と『手打ちうどん』

地区社協部では今年度3回の料理教室を計画。前々号で報告した第1回の『こども料理教室』に続き、第2回、第3回を近隣センター調理室で開催しました。

平成23年12月8日の『オトコの料理教室』には14名が参加。平均年齢は69.7歳、最高齢は80歳でした。講師は当地区社協部、健康づくり推進員を中心とするベテラン主婦陣。栄養バランスがよく、応用の利く献立をと、打ち合わせと試作を重ねて、鮭のチャンチャン焼き・ほうれん草のゴマ和え・けんちん汁・ごはんに決定。一品ずつ手本を示してから実際に作ってもらう形式は分かりやすいと好評。「楽しかった」「ぜひ継続してほしい」という声が多く上がりました。

平成24年2月18日には『本格手打ちうどん教室』を開講し、男性11名、女性3名計14名が参加。講師は讃岐うどん普及会の鳥飼弘さん(南ヶ丘自治会)。助手は門下の有井孝芳さんら。「理論なくしてよいうどんは作れない」が鳥飼さんの持論で、教室はグルテンの生成など“うどんの科学”の講義からスタートして実践に。ゆっくり混ぜて、ゆっくりこね、足踏みをしてねかす。「あわてたらだめ」。一日がかりの教室には、講師の「大地のめぐみを作って楽しみ、食べてもらって喜んでもらいたい」という思いがあふれていました。

全3回の料理教室を企画したねらいは小林みつえ部長によれば◆地域の皆さんに地区社協部の活動やスタッフの顔を知ってもらう◆仲間づくりのきっかけ◆災害時の備え、など。今後も継続の予定です。広報紙や回覧お見逃しなく。地区社協部いきいき班・広報班



「オトコの料理教室」でパンダナとエプロンで



講師の手元を注視「本格手打ちうどん教室」

春よ来い! 芸能発表大会

増尾地域に春を呼ぶ、芸能発表大会が平成24年3月4日に近隣センター体育室で開催され、50組225名が日頃の成果を発表しました。

あいにくストーブのそばから離れられないほど寒い一日でしたが、プログラムには、春、梅、桜の文字がちらほら。満員の観客席は拍手、歓声、笑いに包まれました。

また増尾婦人部による温かいお茶、ハッピーサロン増尾のコーヒーのサービスや消費生活コーディネーターのPRコーナーにも人があふれました。

増尾地域ふるさと協議会創立30周年記念と冠する行事もこれですべて無事終了。すでに来年度の準備が着々と進められています。『芸能発表大会』実行委員会



扇の開く音が小気味よい、胡蝶蘭の皆さんの太極扇



『紅つばき』をしっとり市岡さん



手作りの衣装で『紫のマンボ』を熱唱する田澤さん



詩吟にのせて踊る詩舞、りりしいお二人



勢都線会の現役高校生(右)は芸歴3年

ボクにも注目して!!



みんなをハワイに連れてってー